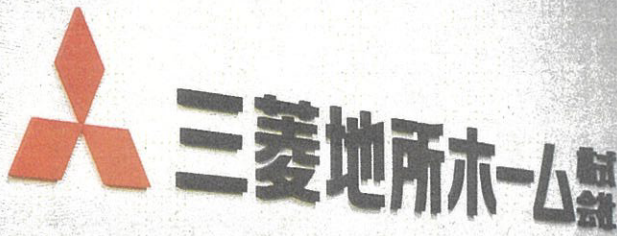


# 三菱地所ホーム 加藤博文社長(56)

## 熱中症、ヒートショック、ウイルス…空気環境に配慮した新機軸



加藤博文(かとう・ひろふみ) 1965年1月生まれ。56歳。福島県出身。中央大学経済学部卒業後の89年三菱地所入社。2008年中国支店次長。14年三菱地所レジデンス広島支店長。15年三菱地所ホーム代表取締役社長。21年三菱地所グループ執行役員兼務。現在、日本ツーパフォー建築協会副会長、住宅生産団体連合会監事。



### トップ直撃

2015年に代表取締役社長に就任、今年7年目を迎えた。三菱という大きなブランドを持つが、「社名はあまり知られていない」と話す。後発の「エアロテック」を「エアロテック」の発売だ。高齢化や気候変動に伴う熱中症、ヒートショック、ウイルスなど住宅の空気環境に配慮した「新機軸」に注目が集まる。「存在感ある会社にするのが私の使命」と言い切る。(危機管理・広報コンサルタント 山本ヒロ子)

### 次世代向けに開発

御社の成り立ちをおつかいがいします。「三菱地所が50年先1000年先を見据えた街づくりを目指し、ニュータウン開発に取り組み始めたのが1970年ごろで

### 全館冷暖房換気住宅

# エアロテックで後発ストレス払拭

血圧が大きく変動するなど命の危険にさらされることもありま。夏場は地球温暖化の影響でヒートアイランド現象が進み、熱中症にかかる人が年々増えてい。近年はシックハウス、花粉症、新型コロナウイルス感染症など「空気リスク」が問題化。こうした社会課題を解決するため研究を重ねてきました。「その後の展開は」

「1台のコンパクトな室内機で24時間365日、家中まるごと冷暖房・換気を行うシステムです。全館空調ですが部屋ごとに温度設定ができ、浴室やトイレを含めた住宅全体の室内温度をコントロール。冬場のヒートショックや夏場の熱中症の予防にも貢献しています。95年の発売以来、1万棟以上販売しています」

### 週3で道場通い「後輩の成長する姿が励みに」

【空手五段】中央大学では、体育連盟空手部に入部。4年の時に主将を務め、卒業後、最高段位の五段を授与された。現在は、日本空手道松濤會理事と本部道場松濤館指導副部長を務め、空手道との縁は継続している。空手を始めたきっかけは、経済学部同級生に入部を誘われたことだった。「知人からフルコンタクト空手(直接打撃)を教わっていたこともあり、大学では体育会で本格的に武道空手を習いたいと思いました」



棍や木刀も使い身体操作を稽古

【武道空手】空手にはさまざまな流派がある。中大空手部は基本技や組手・型を中心に稽古し、試合競技は行わない。「稽古を積み重ねることにより武道特有の身体操作を身につけ、心の修養をすることができました。武道から得るものは多いですね」

「成長する姿は自分の励みにもなります」【家族】妻、4歳の女の子、2歳の男の子と同居。休日、公園で一緒に遊ぶのが気分転換になり楽しみたい。多くの人とのコミュニケーションの場でもあったゴルフは思い切って止めた。「今は、仕事、空手、子育て」ときっぱり。【新入社員】毎年15人前後の新入社員を迎える。朝から晩まで1日中、加藤社長と行動を共にする研修が好評だ。「社員数約500人の会社なので、ファミリー感を大切にしたい」「社員には、『高い志と覚悟が必要』と常に話しています」



社員と懇談する加藤社長(左から2人目)

### 社員に先人の言葉

「言葉には大きな力があります。私が日々の業務や生活の中で感じたこと、心に響いた古今東西の先人たちの言葉を週に1冊、3行ほどのメッセージを社内発信しています。例えば、『現状は、過去の自分の積み重ね。誰のものでもない自分の人生。《今》を懸命に生きよう』などがあります。折に触れて読んでいただき、業務や生きていくうえでのヒント、動機付けになればと思っています」

「来年、東京都港区赤坂から新宿区の新宿イーストサイドスクエアに移転します。都内最大級の1フロア床面積を持つビル。ワンフロアを確保でき、ワークスペース(働きがいと働きやすさの向上)を一層推進していきます」